

目的 歩行とは、人間の行う動作の中で、最も基本的なものであり、同時に生活のあらゆる場面で不可欠の動作である。従ってこれまでに自然人類学、体育学、整形外科学、最近ではバイオメカニクス等様々な分野で研究が行われている。しかし、家政学の立場からの研究は少いが、泥はねや、歩行することで起こる衣服の擦れ、下衣と歩幅の関係等テーマは多い。また姿勢が健康に影響を及ぼす事から、歩行時の姿勢も重要と考えられる。そこで、歩行について総合的に検討を試みた。今回は、その第一段階として映像による歩行の分析を報告する。

方法 被験者は20代の健康な女子で、トレッドミルを用いて裸足及び運動靴着用で歩行した。歩行に支障のないように、衣服は上衣に長袖シャツ、下衣にショートパンツで実施した。側面及び背面からビデオ撮影し、拡大画像により、距離・角度・時間を計測した。それにより、歩行の周期・歩幅・歩隔・歩調について統計処理し分析した。

結果

1. 一様に思える歩行だが、各人の右ステップ・左ステップの差が大であった。
2. 個人の歩様は特に歩隔に現れ、固体識別は背面からの観察が最も有効である。
3. 裸足と運動靴着用で歩様が如実に変化する場合がある。
4. 歩行は機械のごとく一定に行われるのではなく、常にバランスを保ちながらくり返されている。

以上、歩様は人によって異なる上、一步ごとにばらつきがある。